

身近な情報をお寄せください
企画調整課広報広聴係
(☎373-2111 内333)

話題

新桃生！「スイートピンク」 ピーチワイン発表会

フルーツ王国白根に新しい特産品が登場しました。県下一の生産量を誇る桃を原料にした、ピーチワイン「スイートピンク」です。その発表会が五月十一日、白根市農協ドリームホールで行われました。席上、滝沢市長は「農産物に付加価値を付ける試みは重要。新しいアイデアで付加価値を高める農業活動に期待したい」と、新しい本市の顔に期待を寄せます。桃は日持ちが悪く、食べごろ出荷に努めてはいるものの、過熟果の発生は避けられません。しかし、



ワインの加工には完全熟した桃の方が良いワインができるとのこと。農家に強い味方ができました。ピーチワインの発表に当たっては、昨年十一月に名称を募集。八十点を超えるネーミングが集まり、市民の関心の高さを伺わせました。「スイートピンク」の名付け親は和田としみさん（浦梨）。賞品としてワイン・グラスが贈られました。このワイン、名前のとおり愛らしいピンク色。味も、色も、香りも「スイート」です。お勧めの料理は意外にも日本料理で、特におすしに合うとのこと。白根市農協には、洋ナシワイン「ルレクチェ」とともに、早くも問い合わせが殺到しています。

価格は七二〇が、以前で一千二百円と手ごろ。残念ながら今年製造した四千本は売り切れてしまい、白根市農協では「今年手に入らなかった人は、ぜひ来年分の予約を」と話しています。詳しくは同農協小林支所（☎373・2311）へ。



規模拡大に新兵器 根岸球根組合 摘花機試運転

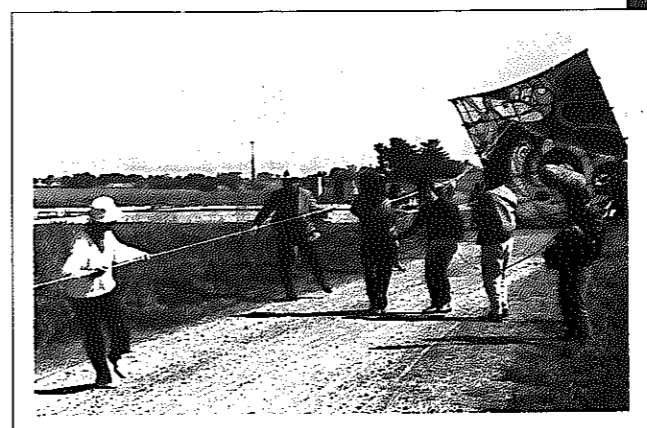
畑一面に咲くチューリップの摘花作業は、見た目の美しさとは裏腹に大変な重労働。その労力の軽減を図ろうと、摘花機の試運転が四月二十七日、中塩俵で行われました。これは根岸球根組合が富山県の農機具メーカーの試作品を借り受けたもの。遠藤久会長は「摘花が機械化されれば労力は十分の一で済み、産地の規模拡大にもつながります」と期待を寄せます。「近代農業は週休二日制で」と組合員。実用化は二、三年先とのことですが、試運転の結果は上々。腰痛の解消にも大きな新兵器が現れました。



虎も大風につくりに 大風を紹介

テレビ新潟で放映中の「遠くへ行きたい」（毎週土曜午後六時三十分～七時）のロケ隊が、五月七日本市を訪れ、大風の取材を行いました。今回の取材は、月潟村の角兵衛獅子や味方村の笹川邸など中ノ口川沿線の観光や風物を紹介するもの。

大風の取材は、鷲巻桜町の信濃川河川敷で行われ、取材用に作成した大風や合戦に使う実物など三枚の大風を揚げました。番組ホスト役の竜虎も風揚げに参加。「これはすごい、合戦のときはさぞ勇壮なんだろうね」と驚き顔。番組の放送予定は八月上旬とのこと、お楽しみに。



白柔魂で全国三位 全国少年柔道大会 白根柔道教室

五月五日、講道館で行われた全国少年柔道大会に出場した白根柔道教室が第三位に、丸山剛広君（茨曾根小五年）が優秀選手賞に輝きました。この大会で新潟県代表が三位以内に入ったのは初めて。準々決勝では優勝候補の鹿児島県代表チームを敗り、大きな自信をつけました。

外川朗監督は「子供にも、これからが大変だと話をしました。注目されているし、簡単には負けられないですから」と気持ちを引き締めます。東京から帰った次の日も早速練習。「白柔魂」の旗の下、来年はぜひ全国一を目指して頑張ってください。



ごごろの腕を発揮 市ゲートボール大会

四月十七日、第十回市ゲートボール大会がカルチャーセンターで行われ、三十九チーム、二百七十人が参加しました。日ごろの練習で鍛えてはいるものの、やはり大会ともなれば肩力が入ります。いつもは簡単にくぐるゲートも、この日はなぜか狭く感じる人も。

優勝は下鷲ノ木Aチーム。上位七チームは、先月カルチャーセンターで行われた三市中東蒲原大会に出場しました。準優勝以下は次のとおり。②上塩俵B ③松橋、上塩俵A ④睦B（鷲巻）、山長寿C（山崎興野）、楽寿（中塩俵）

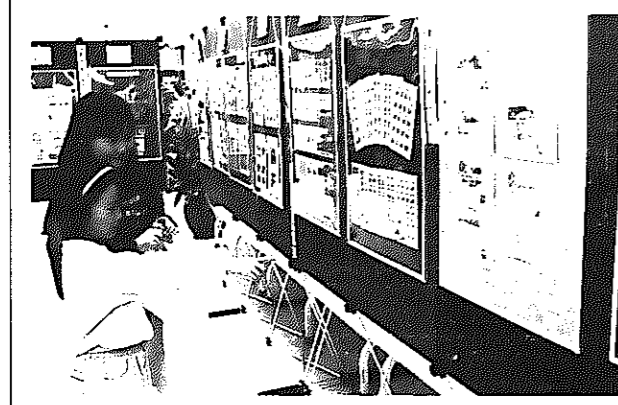


ま ち の

切手は歴史の記録 白根郵便局 切手展

四月二十日は通信記念日。それに合わせ、白根郵便局（大場基栄会長）が四月十九日から二十一日までライオンズで切手展を開きました。S Lや花など、会員が自分のコレクションの中からテーマごとに二十点のパネルを展示。中には一枚？万円という人気切手もあります。

「いろいろな行事がある度に記念切手が発行されるので、収集した切手は歴史の記録にもなります」と白根郵便局の佐藤郵便課長。鉄道の歴史を切手でたどるパネルも展示され、切手マニアにとっては見逃せない催しとなりました。



青年スクールから十年 朱扇会 書展

朱扇会書の作品展が四月二十七日から二十九日まで、カルチャーセンターで開催されました。期間中作品展には六百余人余りが訪れ、百四十点の力作に見入っていました。青年教育センターの書道講座に参加していた人たちのサークル「墨香会」が、十年の節目を迎える機会に作品展を企画。講師の富井朱扇さんの指導を受けているほかの五つの会の参加を得て「朱扇会」の名の下に開催したものです。

実行委員会では、大勢の人から見てもらい、ほかの会との交流もできたことに、大いに満足していました。

